

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075300154
法人名	社会福祉法人 小竹福祉会
事業所名	グループホーム新多園
所在地	福岡県鞍手郡小竹町新上日177-8
自己評価作成日	平成25年1月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成25年2月15日	評価結果確定日	平成25年3月21日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居されたときより、少しでも日常生活動作が向上されるよう 又 いつまでも健康で過ごしていただけるよう常に 歩行をする場面をつくり 個々にあった 歩行の安定や離床を心がけ 下肢筋力低下防止にも気をつけています。出きるだけ トイレでの排泄が行えるよう支援をしています。協力病院【在宅療養支援病院登録】より月2回往診 緊急時 24時間の往診・訪問看護体制をとり 安心・安全・穏やかな生活を提供できるよう努力しています

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同法人の介護老人福祉施設やデイサービス事業所が周囲に位置し、梅や桜の木々に囲まれた、緑豊かな高台にある事業所である。民家が少ない周辺環境ではあるが、地域より回覧板を受け取り、地域情報の共有や行事への参加を通じて、地域との交流を図っている。また、隣接する同法人施設との連携により、幼稚園や小学校との交流も行われている。運営推進会議での提案から始まった、月1回のフラワーアレンジメント教室は、入居者の方々に好評を得ており、作品は居室や共用空間に飾られ、暮らしに潤いを与えている。心身機能の維持、活用に向けて、暮らしの中での機能訓練や、「遊びり」とするトランプやカルタを用いたレクリエーションを定例化している。協力医療機関や同法人施設との連携を密にし、日々の健康管理や緊急時の対応についても、安心できる体制作りに取り組んでいる。今後も個別の思いやニーズに向き合いながら、地域拠点としての活動展開が大いに期待される事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼で理念を唱和し 沢山の笑顔を引き出せるよう支援を心がけている	理念は、居間兼食堂の壁に大きく掲示されている。毎朝、申し送りの際に職員で唱和し、理念の共有を図っている。「家庭的でやすらぎのある充実した日々」をモットーにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティア 近隣の幼稚園・小学校等の慰問 職場体験 実習生等との交流 町内の文化祭参加 日常的とは言いがたいが できる限り地域とのつながりを大切に行っている	同法人施設と合同で、近隣の幼稚園や小学校との交流の機会を持っている。また、職場体験学習や実習生を受け入れている。近隣には民家が少ない為、日常的な交流は難しい面もあるが、町内文化祭への参加や、フラワーアレンジメント教室の開催等、少しずつ交流を積み重ねている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特に行っていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見としていただいた 情報等の元 習い事を始めるきっかけとなった ボランティアで教えてくださる先生も声かけにて来てくださるようになり 1回/月フラワーアレンジメント教室を開催できるようになった 利用者さん達も毎月の楽しみが増え喜んでおられている	家族代表、民生委員、市町村職員、社会福祉法人監事の方の参加を得て、定期的に関われている。運営推進会議の中で提案され、昨年9月から始まった月1回のフラワーアレンジメント教室は、入居者の方々の楽しみ事になっている。会議では、行事報告や意見交換が行われ、運営に反映できる様に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月 2.3回福祉課へ利用者状況等を報告に出向いており 困りごと等あれば相談にのっていただける協力関係を築いている	管理者は、直接福祉課へ出向き、報告、相談を行い、日頃より協力関係を築いている。又、ケースワーカーの方との連携も図っており、定期的に訪問を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は遊ビリをとうして精神安定や身体機能の低下防止に努めている 施錠は、夜間の就寝時のみとしている 予測される危険な状況は日ごろから家族に伝え 対処法等を家族と話し合っ決めていきます	日中、玄関は施錠していない。他の2か所の出入口も施錠しておらず、チャイムで確認できる様にしている。又食堂からも外に出ることができ、職員がさりげなく寄り添って、隣接する同法人施設の方に散歩に出かけ、気分転換して戻ってきている。日常の暮らしの中で想定されるリスクについては、家族とも共有認識を図りながら、身体拘束しないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修で学ぶ機会を設けている		

福岡県 グループホーム 新多園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレット等 玄関内の棚に準備している 関心等有る方には 説明をさせていただくようにしている 現在 成年後見人制度を活用されていらっしゃる利用者がおられる	現在、成年後見制度を活用している方がおり、司法書士の方が毎月訪問している。パンフレット、資料を用意して、問い合わせに対応できるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明時及び後日でも 質問等随時対応し 納得 理解をしていただけるように 努めている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時は必ず声をかけ 日ごろの生活の様子等 個人日課表 バイタル表等を参照しながら心身状況を知っていただき 又活動の報告も兼ねて行い意見等伺っている	個人日課表やバイタル表等を開示し、家族来訪時に、情報共有や意見を収集している。グループホームより、「ほのぼののだより」を毎月送付し、日常の様子を知らせている。家族より出された意見や要望は、職員への周知を図り、反映出来る様に努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	提案 意見等あれば 可能な限り取り入れ 利用者支援がよりよいものとなるよう又職員のスキルアップへ繋がっていくと考えるよう努めている	随時の職員会議や、毎日の申し送りの際に、職員に意見を求めている。また、伝達ノートへの記載を通じて、職員間での共有や検討が行われている。出された意見や提案は、業務に反映できる様に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回提出する 考課表を参考に勤務状況の把握をし 日ごろの何気ない会話にも気を止めて 職員の気持ちの変化に 早く対応していくよう努めている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたり 規定はなく 面接時に感じられる人柄や 清潔感のある方を採用している 余暇活動においても 希望休暇に対応し充実できるように配慮 心身のリフレッシュをし 勤務に望めるよう努めている	グループホームでの採用となり、法人の責任者と共に面接を行っている。採用にあたっては、年齢や性別等、特別な制限は設けていない。60歳定年制はあるが、意欲や状況を踏まえ、延長も可能である。希望休などに対応し、働きやすい職場環境作りを努めている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	【老人福祉倫理網項】【グループホーム倫理網項】を掲示 報道で知れた人権侵害等の事件について朝礼で話題となり 日頃のケアの振り返りが話される 誰がではなく 自然に話題となることで職員に浸透していると認識している	「老人福祉倫理網項」や「グループホーム倫理網項」、「グループホーム利用者の権利」を掲示している。報道等を通じた情報をもとに、朝礼や会議の中で話し合いを行い、人権への意識を高めている。	

福岡県 グループホーム 新多園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務に支障のない範囲で研修を受ける機会を設けている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流ができるよう文化祭 納涼祭り等に 参加している しかし情報交換をするような関係づくりまでには いたっていない		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居の希望があればご本人 家族と調整を行いご本人や主治医との面談を出来るだけ早く行い ご本人のコミュニケーションを図るよう努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の相談から関係づくりが始まり 今何が一番困っておられるか 要望等に傾聴し緊急性の有無を見極め 見学、訪問の調整行い関係づくりに努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、家族の困りごとに耳を傾け当ホームで提供できるサービスや 他のサービスもお伝えし ご本人にとって一番良い支援となるよう対応に努めている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	私達の家族という認識 利用者の生活暦の仕事の後輩 先輩 甥の嫁等 場面場面の登場人物になりながら 共に暮らす者として、より良い関係を築いていけるよう支援している		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後家族と疎遠にならないよう電話 外出外泊等希望があれば支援し 面会時わずかな時間でも家族と自室でお茶等飲んでいただき 又持ち込みの食事と一緒に摂れるようにしている		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の会話に出てくる名前を 家族の面会時のお尋ねし 家族が知っておられる近況等を話されると関心を持って聞かれ 家族での会話も弾んでいる光景を目にすることができ 支援を更にしていく	同法人のデイサービスを利用している親族の方との交流の機会を持ったり、会話の中から把握された関係性が、旧知の方との面会につながった事例がある。今後も関係性の把握や、継続に向けた支援を充実させていく方針である。	

福岡県 グループホーム 新多園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その場の状況に応じ 見守りや助言等を行い利用者同士の円滑な関係が維持できるよう支援をしている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退園されても、季節のたより、お見舞い等伺い退院に向けてのご相談があれば 再入居 他施設の調整等の支援に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない会話や 散歩 入浴中など 思いや希望を沢山引き出すよう 意向の把握に努めている	日常の会話や、一対一になる入浴中の会話などから、思いを聴き取る様にしている。伝達ノートも活用しながら、職員間で共有している。アセスメントの充実を図るために取り組みを始めているところである。	ホーム独自に実施されたアセスメントは少なく、職員の気づきや新たな情報を共有していく為にも、アセスメントの充実を課題とし、取り組みを始めているところである。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	現状維持		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のペースを大切にしつつ集団生活に少しずつ馴染んでいただけるよう支援している 生活の中で出来ることを多く見つけ 家族の一員として 安らぎの場所となるよう努めている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意思 ご家族の思いを基に作成している その後各担当者が主となり 個人日課表の記録からモニタリングをし ケアの見直しプランの変更となっている	本人、家族の意向や、医師の意見を踏まえ、職員の意見や個人記録を参考にしながら、介護計画を作成している。必要な支援を具体的に盛り込み、共有しやすい。今後のアセスメントの充実により、認知症ケアの視点が加えられることが期待される。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日課表 連絡日誌に記入し情報の共有に努め日々のケアにとりいれて 実践や見直しに活かされている		

福岡県 グループホーム 新多園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状維持		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状維持		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全入居者の方が 協力医の往診を希望され異常があれば いつでも連絡がとれ 相談や往診を受けれる体制となっている	入居契約時に、かかりつけ医について確認を行っている。2週間に1度の往診体制があるため、協力医への変更を希望されるケースが多い。必要時には歯科の往診も可能である。受診の際は、家族と職員で同行し、日常の様子を医師に報告している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現状維持		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院等の入院期間中は、主治医との情報交換等が円滑に行えるようこまめに御見舞いや病状説明を伺ったり 早期退院となるよう支援している		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状維持	入居契約時に、重度化や終末期に関する指針を基に説明を行い、「重度化した場合の対応にかかわる同意書」を作成している。状況の変化に伴い、話し合いを重ね、入居者、家族の希望に添える様、支援を行っていく方針である。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	現状維持		

福岡県 グループホーム 新多園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者と一緒に 年2回 昼 夜の出火を想定し 消防避難訓練を実施している 地震 水害等での訓練は未実施	法人内のデイサービスや介護老人福祉施設との合同で避難訓練は開催され、昼夜の異なる連携体制を想定した、実効的な訓練となっている。避難チェックリストを用い、個別の状況を確認している。法人全体で備蓄を行っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	現状維持	日頃より、入浴時や排泄ケアの際には特に留意し、羞恥心やプライドへの細やかな配慮を心がけている。入居者の方々、個々人の理解や、職員間での共有を通じて、人格の尊重やプライバシーを損ねない対応に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	現状維持		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	現状維持		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	現状維持		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現状維持	献立や食材は専門業者を利用しており、職員が交代で調理し、嗜好や希望等を考慮しながら臨機応変に対応している。BGMを流し、職員と会話を交わしながら穏やかな食事風景があった。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	現状維持		

福岡県 グループホーム 新多園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床 毎食後の口腔ケアを励行し誤嚥防止の予防にも努めている 食事中 又 残した副食等の観察行い 口腔内の異常の早期発見し 歯科受診へと繋げている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄確認表で 利用者に応じた介助 誘導等 必要な支援をさりげなくおこなっている	排泄確認表を用い、個別の状況やパターンの把握に努めている。表情や仕草などのサインを見逃さないようにし、職員間で情報共有や検討を行いながら、トイレ誘導や自立に向けた支援を行っている。居室間にトイレが設けられている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給をしっかりと行い 運動を取り入れたアソビ等 毎朝の排泄確認し 主治医の指示に従い適切な対応を支援している		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴していただけるが 浴槽のまたぎが出来ない方おられ 2回/週 特養入浴を利用していただいている	2日に1回の基本的な入浴スケジュールは設定しているが、毎日、入浴準備を行い、希望や状況への柔軟な対応に努めている。時期によっては温度差が生じないように暖房を使用している。清潔感のある浴室とゆとりある大きさの浴槽が備えられている。湯加減や好みのシャンプーを使用する等、ゆっくりと楽しめるよう支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	空調の調節 清潔な寝具 寝巻き 就寝前にリラククスできるよう 季節にあった飲み物の提供等 安眠していただけるよう支援している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者の内服の【薬説明書】は個人ファイルに綴じいつでも確認できるようにしている 詳しく知りたいときは 薬早分かり事典 で理解するようにしている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味の有る方には在宅同様に継続していただいている 毎日の日課として 清掃 カーテンの開閉 食事の挨拶 仏壇の水換え 献立記入等 役割としてお手伝いをお願いしている		

福岡県 グループホーム 新多園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別対応は 行えていないが お正月 お盆は 家族の協力で外泊外出ができています	気候の良い時は、敷地内の散歩をしている。少しずつ重度化へと移行する中で、個別の対応については十分とは言えないが、法人の大きな車を借りて、ドライブや花見などに出かけている。正月やお盆には、家族との連携を図り、外泊や外出を行えるよう配慮している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理のできる方は、財布を所持されておられる困難な方でも必要時は お金を渡し ご自分で支払っていただくなど 安心して買い物をしてもらえる支援をしている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話は 使えるようになってきている はがき等準備しているが、ご利用はない		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	現状維持	「和」を基調とする落ち着いた雰囲気のある室内空間であるが、床暖房の設置や居室間にトイレが設けられる等、快適に過ごす為の配慮が行き届いている。畳コーナーには掘り炬燵も設けられ、ゆとりある共用スペースにあるソファなど、寛ぎの場所も確保されている。洗面やトイレにも、入居者による作品や生花が飾られており、全体的に、潤いある生活環境作りへの意識は高い。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	現状維持		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	月1回 季節のお花を題材に、フラワーアレンジメント教室に参加し自分で生けたお花を自室に飾っていただいて 癒しのある居室になるよう心掛けている	今年度より始まった、フラワーアレンジメント教室で生けられた生花が、居室を明るくしている。どの居室も、ロッカーに衣類などが整理整頓されている。動線を確保し、安全面への配慮とされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の出きる事 出来そうな事を見極め 体調の変化にも十分気をつけながら 情報の共有の基、安心安全 穏やかに 自分らしく生活していただけるよう支援に努めている		